

SHIKA-CHU IB Journey

鹿追中学校国際バカロレア通信

鹿追町立鹿追中学校
IBCO　奥平 和也
2026.11.25
Vol.50

瓜幕中の「授業公開ウィーク」に行ってきました《前編》

～同じ町の、もう一つの IB 校から学ぶ～

皆様こんにちは。IB コーディネーターの奥平です。

先日、瓜幕中学校で行われた「授業公開ウィーク」に、鹿追中の教職員が参加させていただきました。今号と次号の 2 回に分けて、その参観レポートをお届けします。

🏫 瓜幕中学校ってどんな学校？

瓜幕中学校は、鹿追中と同じく **2025 年 12 月に国際バカロレア（IB）MYP の認定を受けた**、町内のもう一つの中学校です。一つの自治体のすべての公立中学校がそろって認定を受けたのは、日本で初めてのことで

した（これは確かなソースの情報ではありませんが、世界で7例目、アジアでも初らしいです）。

全校生徒は４０名程度と、鹿追中よりもさらに生徒数の少ない学校です。少人数だからこその温かさやきめ細やかさ、小回りの良さなどを生かした、瓜幕中ならではの挑戦を続けています。同じ IB 認定校だからといって両校は金太郎飴のように同じ取り組みをしているわけではなく、それぞれの文脈で個性が発揮し、独自の進化を遂げていっているのが面白いところであり、お互いに学び合える関係性に繋がっていると考えます。

👀 なぜ全職員で瓜幕中へ？

鹿追中では今年度、校内研修で「**思考力・判断力をよりよく身につけるには、どうしたらいいだろう？**」というテーマに取り組んでいます。

その一つとして、先生同士がお互いの授業を見合う取組を進めています。参観のときは、「概念的な問い」や「GRASPS（課題の場面設定）」の置き方など、思考力・判断力を育てる授業の工夫を見るための参観シートを使っています。

この視点で、自校だけでなく他校の授業も見てみよう、ということで、今回瓜幕中にお願いし、授業公開ウィークに全職員で伺うことになりました。快く受け入れてくださった瓜幕中の皆様、本当にありがとうございました。

ちなみに私が伺った 11 月 20 日（金）は、ちょうど凪幕中の「**私服 DAY**」。生徒のみんなが私服で授業を受けている、ちょっと珍しい一日でした。実はこの私服 DAY にも、凪幕中らしい「ある理由」があるのですが……それは後編でご紹介します！

🎵 2 年生の音楽「鹿追 PR の CM をリズムで創ろう」

私は主に、2 年生の音楽の授業を見せていただきました。単元は「リズム表現（言葉とリズム）」です。



私服 DAY の音楽室。

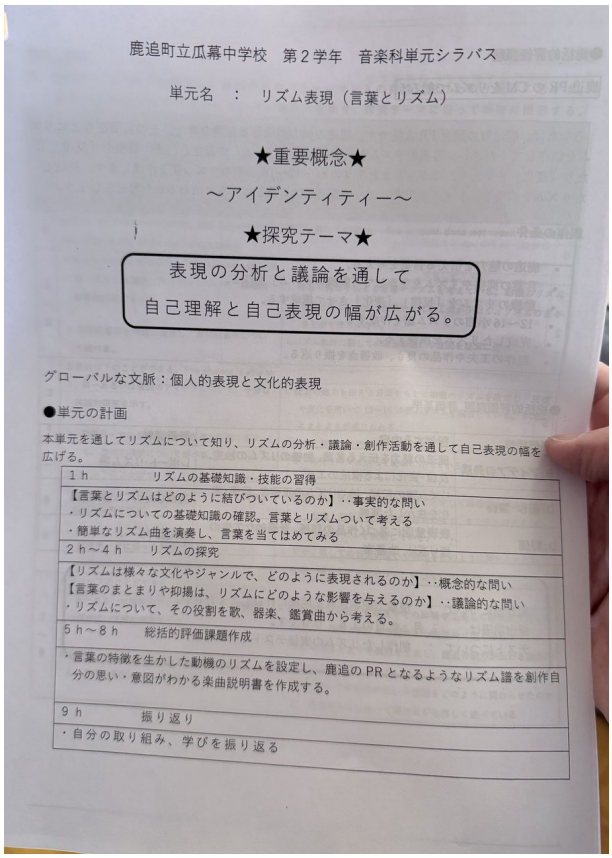
この日は、単元のまとめとなる課題（総括的評価課題）に取りかかる時間でした。課題には、こんな「場面設定」がされています。

> 「あなたは、鹿追町の観光 PR 大使です。鹿追の魅力が伝わる言葉を考え、その言葉をもとにリズムを創作してください。」

言葉のリズムを「動機のリズム」として設定し、それを「反復」させたり「変化」させたりしながら、12～16 小節のリズム譜をつくります。そして、自分の思いや意図が伝わる「楽曲説明書」も書く、という課題です。

① ゴールと物差しが、最初から見えている

まず素晴らしいと思ったのは、単元の最初に「**単元の概要説明書（シラバス）**」が生徒に配られていることです。


鹿追町立瓜幕中学校　第２学年　音楽科単元シラバス

単元名　：　リズム表現（言葉とリズム）

★重要概念★

～アイデンティティー～

★探究テーマ★

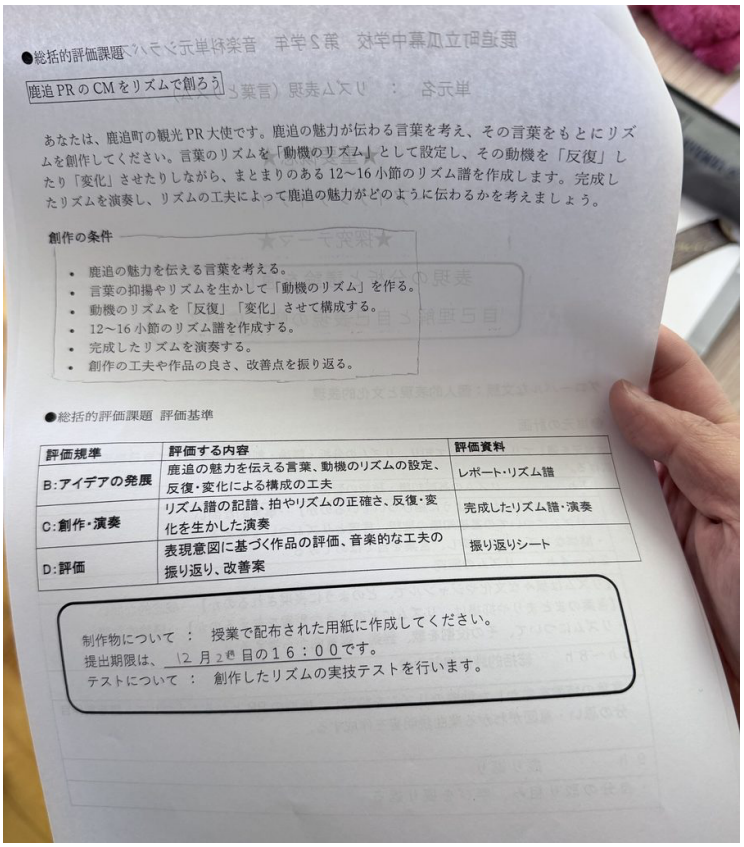
表現の分析と議論を通して
自己理解と自己表現の幅が広がる。

グローバルな文脈：個人的表現と文化的表現

●単元の計画

本単元を通してリズムについて知り、リズムの分析・議論・創作活動を通して自己表現の幅を広げる。

１ｈ	リズムの基礎知識・技能の習得
【言葉とリズムはどのように結びついているのか】‥事実的な問い ・リズムについての基礎知識の確認。言葉とリズムついて考える ・簡単なリズム曲を演奏し、言葉を当てはめてみる	
２ｈ～４ｈ	リズムの探究
【リズムは様々な文化やジャンルで、どのように表現されるのか】‥概念的な問い 【言葉のまとまりや抑揚は、リズムにどのような影響を与えるのか】‥議論的な問い ・リズムについて、その役割を歌、器楽、鑑賞曲から考える。	
５ｈ～８ｈ	総括的評価課題作成
・言葉の特徴を生かした動機のリズムを設定し、鹿追の PR となるようなリズム譜を創作自分の思い・意図がわかる楽曲説明書を作成する。	
９ｈ	振り返り
・自分の取り組み、学びを振り返る	


●総括的評価課題

鹿追 PR の CM をリズムで創ろう

あなたは、鹿追町の観光 PR 大使です。鹿追の魅力が伝わる言葉を考え、その言葉をもとにリズムを創作してください。言葉のリズムを「動機のリズム」として設定し、その動機を「反復」したり「変化」させたりしながら、まとまりのある 12～16 小節のリズム譜を作成します。完成したリズムを演奏し、リズムの工夫によって鹿追の魅力がどのように伝わるかを考えましょう。

創作の条件

- 鹿追の魅力を伝える言葉を考える。
- 言葉の抑揚やリズムを生かして「動機のリズム」を作る。
- 動機のリズムを「反復」「変化」させて構成する。
- 12～16 小節のリズム譜を作成する。
- 完成したリズムを演奏する。
- 創作の工夫や作品の良さ、改善点を振り返る。

●総括的評価課題　評価基準

評価規準	評価する内容	評価資料
B:アイデアの発展	鹿追の魅力を伝える言葉、動機のリズムの設定、反復・変化による構成の工夫	レポート・リズム譜
C:創作・演奏	リズム譜の記譜、拍やリズムの正確さ、反復・変化を生かした演奏	完成したリズム譜・演奏
D:評価	表現意図に基づく作品の評価、音楽的な工夫の振り返り、改善案	振り返りシート

制作物について　：　授業で配布された用紙に作成してください。
提出期限は、　12 月 2 日の１６：００です。
テストについて　：　創作したリズムの実技テストを行います。

左：単元シラバス（重要概念・探究テーマ・単元の計画）　右：総括的評価課題と評価基準

シラバスには、この単元の重要概念「アイデンティティー」、探究テーマ「表現の分析と議論を通して、自己理解と自己表現の幅が広がる」、そして単元の流れと、各段階で考える「問い」が示されています。

・**事実的な問い**：言葉とリズムは、どのように結びついているのか

・**概念的な問い**：リズムは様々な文化やジャンルで、どのように表現されるのか

・**議論的な問い**：言葉のまとまりや抑揚は、リズムにどのような影響を与えるのか

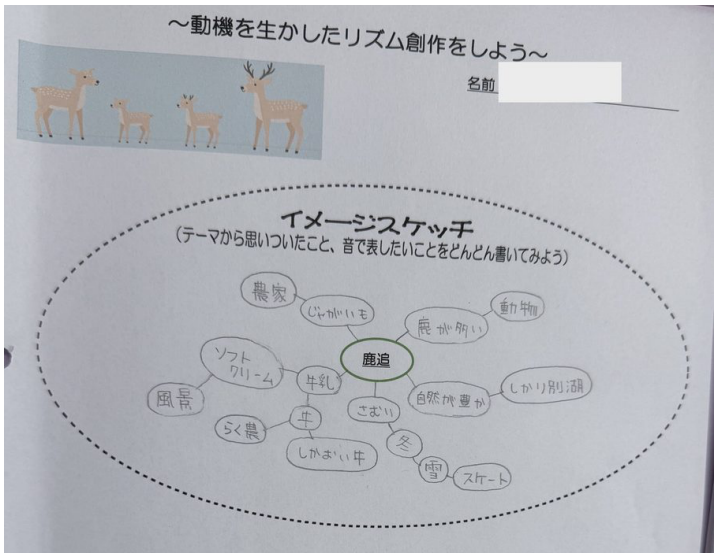
生徒たちは、「最後に何をつくるのか」「それがどんな物差し（ルーブリック）で評価されるのか」を知った上で、知識や技能を身につけ、探究を重ねてきました。ゴールが見えているからこそ、途中の学び一つひとつに目的が生まれます。

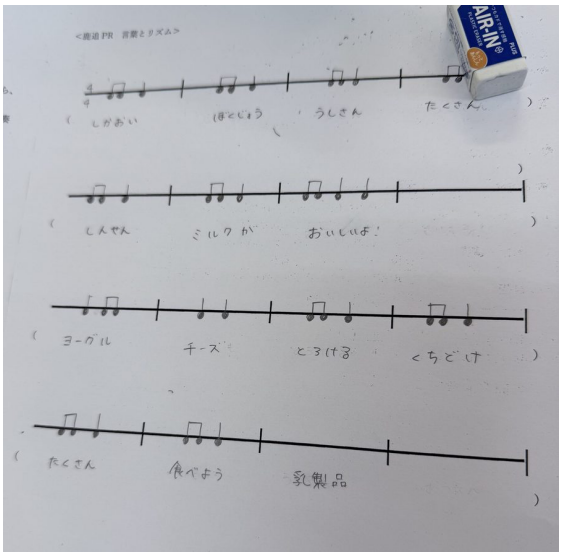
② 教室を飛び出していける題材

「鹿追を PR する CM をつくる」という題材そのものも、とても良いと感じました。リズムや言葉で町の魅力を伝える力は、総合的な学習の時間のコミュニティプロジェクト（CP）で、地域の課題やニーズに取り組むときにも、そのまま一つの手段として使えます。

③ 自然と生まれる「協働」

生徒たちは、まず「鹿追ってどんな町だろう？」と向き合うところから始めていました。





左：「鹿追」から連想を広げるイメージスケッチ　右：創作中のリズム譜（※氏名は伏せています）

中には「ありきたりすぎてもつまらないよね」と、少し変わった視点から鹿追の良さをフレーズにしようとしている生徒もいました。

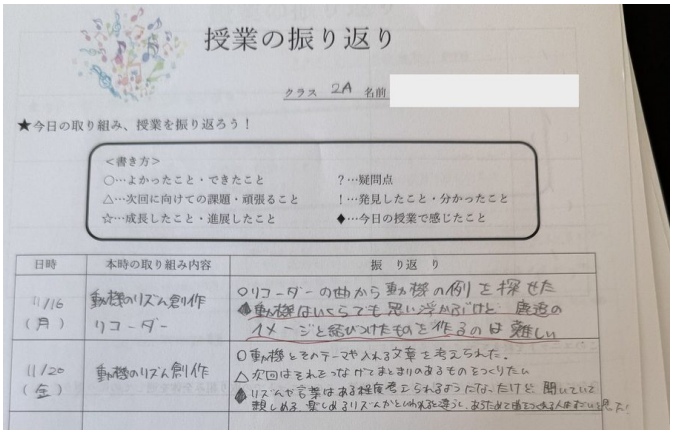
ある生徒のリズム譜には、こんな言葉が並んでいました。

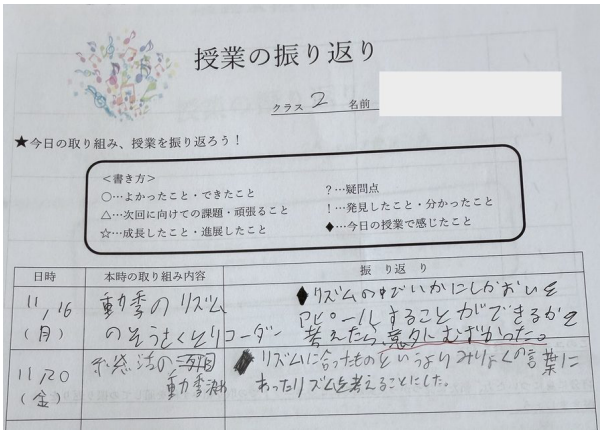
> しかおい　ぼくじょう　うしさん　たくさん
>
> しんせん　ミルクが　おいしいよ！
>
> ヨーグルト　チーズ　とろける　くちどけ
>
> たくさん　食べよう　乳製品

手を「パン、パパパン」と叩き、声に出しながら、周りと相談する。友達から「ここに『ヘイ！』って入れてみたら？」と言われて、「なるほどね」と取り入れる。作品づくりは一人ひとりの作業ですが、その中でも自然と周りと協力して進める姿が、とても素敵でした。

毎時間の振り返りシートにも、生徒たちの試行錯誤が表れていました。

> 「動機はいくらでも思い浮かぶけど、鹿追のイメージと結びつけたものを作るのは難しい」
>
> 「リズムや言葉はある程度考えられるようになったけど、聞いていて親しめる・楽しめるリズムかといわれると違うし、あらためて曲をつくる人はすごいと思った！」
>
> 「リズムの中でいかに鹿追をアピールすることができるかを考えたら、意外にむずかしかった」





生徒の「授業の振り返り」シート

「難しい」と感じながらも、その難しさの正体を自分の言葉で捉えている。まさに思考力・判断力が働いている瞬間だと感じました。

アイデアがなかなか出ない子や、少し違う方向に進みそうな子への先生の声かけも絶妙でした。答えを示すのでも、全部を否定するのでもない。続けてきた実践の中で磨かれてきたものだと感じます。少人数だか

らこその温かい空気や、先生との気の置けないやりとりも印象的でした。

「どこで学んでもいい」学校の、あえての工夫

瓜幕中は、学校のどの場所で学んでもよいのが大きな特徴です。授業中なのに教室にほとんど生徒がいない、ということもあります。

ところが、この総括的評価課題の時間は、あえて全員が同じ場所で、先生の前で作品をつくっていました。

理由を伺うと、『ばらばらの場所で取り組むと、どうしても AI に頼ってしまう生徒が出てくること。そして逆に、本人の力で良い作品ができたときにも「AI を使ったのでは？」という懸念が残り、先生が生徒を信頼して評価することが難しくなる』、といった課題にぶつかったことがあったそうです。

自由な学び方を大切にしながらも、場面に応じて形を変える。瓜幕中でも、試行錯誤を重ねながら様々な工夫をされていることが伝わってきました。

💭 鹿追中に持ち帰りたいこと

授業の組み立てや生徒の主体性、先生方の声かけなどは、鹿追中も同じ方向を向いて取り組めている部分が多々あります。そのうえで、持ち帰

りたいと感じたことが３つありました。今号ではそのうち２つをお伝えします。

① 単元の概要説明書をさらに磨く

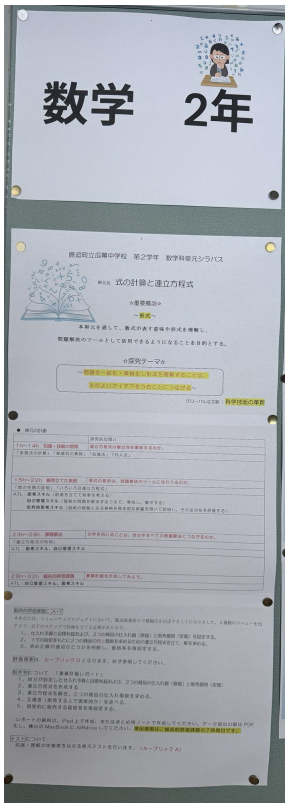
瓜幕中では、全教科で単元の概要説明書（シラバス）にかなり力を入れていました。生徒が学び方に慣れてくるほど、ルーブリックや「何のための単元か」をつかむ力がついてきます。だからこそ、本校でも概要説明書やルーブリック、課題設定、単元計画といった資料の質を一層高めていくことで更に生徒の学びの効果を高めることができると感じました。

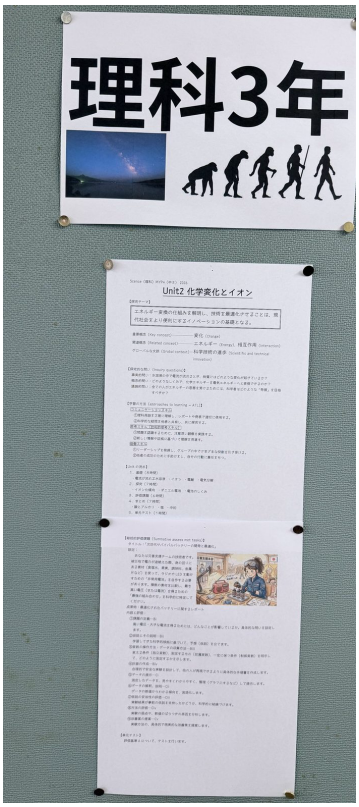
② 学びを「見える」ようにする

瓜幕中の廊下には、「各教科のサマティブ（総括的評価課題）」として、各教科の単元シラバスや課題設定と一緒に、生徒の作品がずらりと一箇所に並ぶコーナーがありました。壮観でした。



廊下に並ぶ「各教科のサマティブ（総括的評価課題）」





左：数学２年「鹿追産業祭りの模擬店の事業計画を連立方程式で立てる」　右：理科３年「災害時に使える非常用電池を開発する」

視察の方や保護者の方がこのコーナーを見れば、学びの良さが一目で伝わります（先生方が日頃いかにご尽力されているかということも）。本校でもぜひ取り入れたい工夫です。

📮 次号予告

さて、ここまでは授業の様子についてお伝えしました。しかし瓜幕中学校の魅力は授業の時間だけにとどまりません。後編では、授業の「外側」で見つけた、瓜幕中の素敵な取組をご紹介します。キーワードは「**昼休み 50 分**」。そして、私服 DAY のある理由も明らかに……！お楽しみに。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

📚 バックナンバーはこちら

これまでの「鹿中 IB 通信」を、立場別・テーマ別にまとめています。

▶ 鹿中 IB 通信 バックナンバー目次←リンク